

仏教はなにを教えてきたか？

仏教前史

紀元前 1,500年頃アーリア人種コーカサス地方から北西インドに進出
火・酒(ソーマ)の信仰=ゾロアスター教の残滓, 祭司階級の誕生
『リグ・ベータ』の完成
アーリア人種ガンジス河流域に進出
ブラフマン(梵天)教(バラモン教)の発生=『ウパニシャッド』の完成
カースト制度(原人プルシャの体の部分に対応してブラフマナ(僧侶),
クシャトリア(王族), バイシャ(庶民), スードラ(奴隷))の発生
業(カルマン)の輪廻思想の誕生

ゴータマ・ブッダの生涯

紀元前5世紀誕生(父スッドーナ(浄飯), 母マーヤ(摩耶夫人)とするが菩薩が兜率天より降りて睡眠中の夫人の右脇に託したとされる)=クシャトリア階級の出自, シャキャムーニ族カピラ国の王子
16歳でヤショーダーと結婚, 男児1児をもうける
「生病老死」に悩む
29歳で出家
ラージャガハ(王舎城)にて6年間「一麻一米」の修業(1日米1粒, ゴマ1粒)
苛烈な修業を排す
ブダガヤの菩提樹の下で若い娘スジャーターの乳粥で29日の修業
悟入
ムリガダーバ(鹿野苑)
サーバッティ(祇園精舎)で布教活動
80?歳, 沙羅双樹の下で死す
アーナンダ(阿難)に, 「法を灯明とし, 他人でなく自らを依りどころとして生きよ」が遺言

ゴータマの思想

『ベータ』の思想(輪廻・転生・カースト)を拒否
人生は「一切皆苦」
苦集滅道「四諦(したい)」=「八正道(見, 考, 話, 行動, 生活, 努力, 思, 心)」の勧め
「三法印」(諸行無常, 諸行無我, 涅槃寂靜)
女性に救済の機会を与えるも不徹底(「女はくそ袋と思え.」(『仏陀の言葉』 岩波文庫参照))
上座部では女性の救済無し

仏教教団

仏教社会

サンガ集団の発生 = 比丘, 比丘尼を中心に在家の優婆塞 (うばそく), 優婆夷 (うばい) がこれを支える
「仏法僧 = 三宝」
在家の規律として五戒の誕生
聖俗分離へ

ゴータマ死後

入滅翌年第一結集
阿含教誕生
100年後第二結集, 「経・律・論」三蔵の整理
200年後第三結集
分裂 = 上座部, 大衆部 = 部派仏教
アショーカ王の庇護を受ける
セイロン, 東南アジア一円に布教
部派論争から次第に陰遁的性格に変質
衰退

紀元1世紀頃大乘仏教誕生
北伝仏教
中国 朝鮮
日本へ
貴族仏教・国家宗教 (カーストの糟が混入)
鎌倉仏教 = 大衆仏教
派閥仏教
葬式仏教・強欲仏教へ墮落

まとめ

- ・上座部 (南伝) 仏教圏 = ブラフマン教の下地
カースト制が混入
輪廻思想
進歩思想の否定 (世界は無窮の古さを体現し, よって最も新しい.)
- ・派閥;
上座部 = 小乗, ブラフマン教の影響多大. タイ, ミャンマ, スリランカ, カンボジャ, ラオス, インドネシア島嶼部などに多い.
大乘 = 北伝仏教 = 極めて多くの派閥有り, 経典による派閥, 思想による派閥など. 教典はゴータマの思想を伝えるとしているが歴史的事実とは無関係, ただし哲学的に深度は南伝より高く, 難解 = 中国, 日本, 韓国, ベトナム (禅宗) などに多い.
ラマ教 = チベット, ネパール, 内外蒙古などの仏教はすべてこの派.
ヒンズー = 仏教が衰退した後, かつてのブラフマン教を下地として発展した. シバ神を最高神とする霊力願望の宗教. インド, バングラデッシュ, インドネシア島嶼部などに多く定着. 日本の真言密教はこれに近い.
ジャイナ教 = バルダマーナを開祖とする禁欲宗教, インドなどに小数残存する.
- ・総じて
労働価値観より悟入価値の方が高い.
近代的労働観は否定される.
近代化思想を育むことはない.